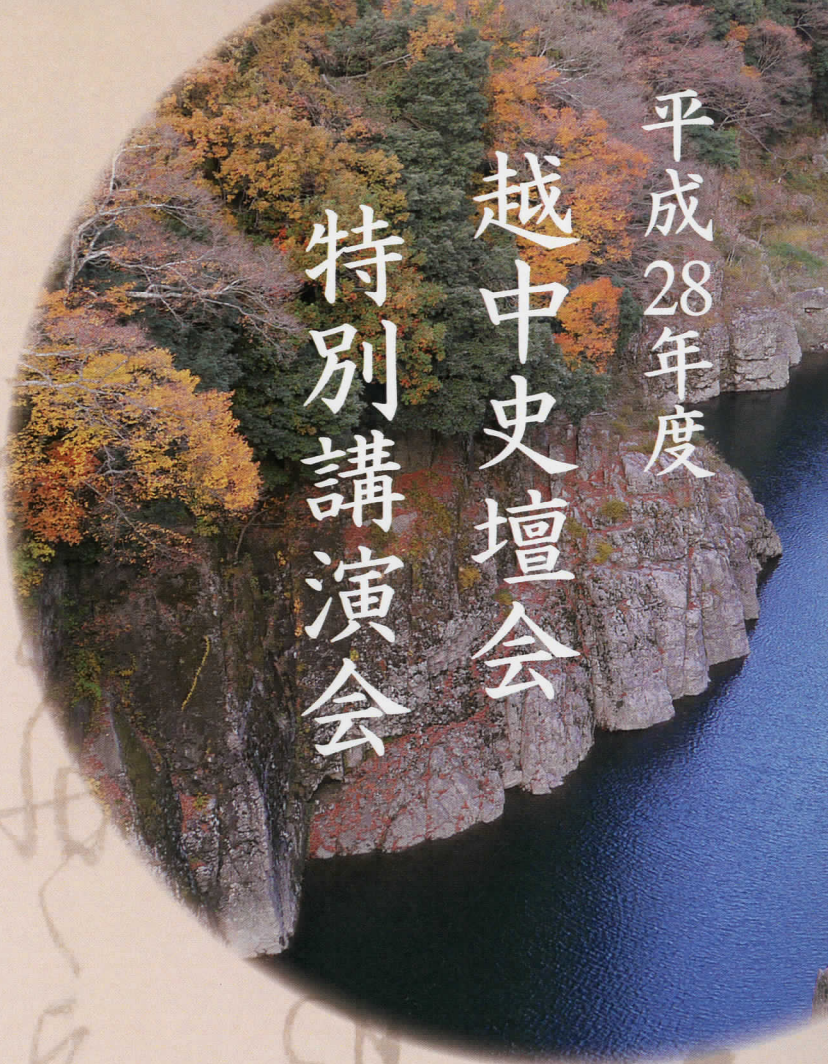


平成28年度

# 越中史壇会

## 特別講演会



# 山・野・河・海

越中を中心に山野河海の利用、そこから採れる物、その管理のあり方、採れた物の流通などを多角的な視点から分析を加える。

山野に関しては森林資源の利用と山手・川手などの税のあり方、神通川上流における牛による運搬と神岡鉱山の開発、野の島地としての利用。特に戦国時代では軍事的な必要性から森林資源が重要となるが、この点を芦峯寺の事例から述べる。河海に関しては、神通川などでの鮭・鱒の採取、富山湾や能登における海鼠などの海産物の贈答の実態、塩引や海鼠腸など水産物の加工の仕方について整理する。

- ◎日時 平成二十八年十一月六日(日)午後二時～四時
- ◎会場 富山県民会館611号室(富山市新総曲輪四一八)

先着順・一般参加歓迎  
参加費無料

# 中世北陸における 山野河海の利用と管理

講師 盛本昌広氏(日本中世史研究者)

盛本昌広氏  
研究実績

『日本中世の贈与と負担』(校倉書房)、『松平家忠日記』(角川書店)、『贈答と宴会の中世』(吉川弘文館)、『軍需物資から見た戦国合戦』(洋泉社新書)、『中近世の山野河海と資源管理』(岩田書院)、『中世南関東の港湾都市と流通』(岩田書院)、『草と木が語る日本の中世』(岩波書店)、『境界争いと戦国謀報戦』(洋泉社新書)、『本能寺の変 史実の再検証』(東京堂出版)、『増補新版 戦国合戦の舞台裏』(洋泉社新書)

